

委員会の動き

○総務産業建設常任委員会

総務産業建設常任委員会調査報告書

総務産業建設常任委員長 佐藤 徳治

平成25年 8 月19日に 風力発電を活用したまちづくりに取り組んでいる津野町の「葉山風力発電所」を調査した。



葉山風力発電所（津野町）

事業者である株式会社葉山風力発電所の用地は、当時行政が民有林25ヘクタールを買収、うち2.5ヘクタールを事業者に賃貸、平成16年 3 月から平成18年 3 月にかけて総事業費約40億を投資して、発電タワー1,000キロワット、20基を建設している。年間発電量は、4,800万キロワット時（一般家庭約13,000世帯分に相当）を見込み、平成18年 3 月22日から操業を開始している。行政のメリットとしては、償却資産の税収当初3,000万円、法人税収41万円、建設事業の量的確保、観光・交流事業への波及効果、雇用拡大（社員 4 人のうち地元 3 人）、その他アプローチ道路維持管理費100万円が町に支払われており、これを原資として家庭にソーラーを設置する場合は、町単

独で20万円の補助金が交付されるなど風力発電誘致によるまちづくりの所期の目的は達成されていた。一方デメリットは、乱気流等の影響で一定の風力がなく、当初計画していたより稼働率が低く収益が少ないようであった。本町でも現在計画されている「大豊風力発電事業」は、環境影響評価法に基づき環境の現状を調査し、操業開始平成30年を見込んでいるが、今回の調査ではメリットが大きく、風力発電を活用したまちづくりは期待できるものと思慮され、早期具現化を期待する。

住民の声

ーターンとして新規就農



総務産業建設常任委員会視察（ラッキー農園）

議会で毎回、空き家や新規就農者対策が議論されています。私たちが就農地を大豊に決めたとき、農業を営むには適地ではないと反対されました。しかし、夏秋に高品質で安全安心な食味（太陽の匂いと果物のような甘さに溢れる）の良いトマトが栽培できるという恵まれた気象条件は、他の地域にはない魅力があります。トマト栽培農家が連携し、大豊町をトマトの大産地にしたいと頑張っております。

記 大豊町佐賀山 ラッキー農園

酒井 寿緒
酒井 笑子

編集後記

四万十市江川崎で、気象庁観測史上日本一となる気温41度を記録した。猛暑日という表現も日常化した夏であった。また突風や竜巻が各地で発生し、地球変動そのものに要因があるのではと気付かされた異常の頻繁化でもあった。

大量に生産し消費することが豊かさの象徴であるかのような錯覚に陥った半世紀でもあり、福島県原発事故処理における相次ぐトラブルは自然に対して、人間の力はあまりにも微弱であることを証明している。振り返ってみたときに、大切なことを見落としていたことに気付いた日々であった。環境やエネルギー問題を疎かにしては身の回りの生活インフラも、さらに、生命すら守り切ることができないことに否応なく到達することになった。

高知おおよ製材工場の操業が開始された。山における人の営みによって植生が変わった。山の形状を整備し、管理する役割が自然を構成している一員として人にかかっている。経済循環だけでなく地球温暖化の原因である二酸化炭素吸収源として、森林成長率を高めるための整備を進めることが要求されている。

9 月議会定例会は活発な議論が展開された。新聞でも注目する案件があり、住民の方も関心を持ち、大いに議論に参加をしていただき、各議員が意見を述べ正面から議論した活発な会期であった。

記 前野 由和

広報編集特別委員会

委員長 三谷幸一郎
副委員長 小川 智也
委員 前野 由和
委員 佐藤 徳治
委員 都築 正光

【ご意見やご感想は】 大豊町議会事務局

電話 72-0450（代表）まで

委員会の動き

○教育民生常任委員会

教育民生常任委員会調査報告書

教育民生常任委員長 西村 正尚

平成25年 8 月21日に田野小学校校舎新築の調査を行った。



田野小学校校舎（田野町）

校舎新築に当たっては、数年にかけ執行部、保護者及び議会で議論され、委託料5,027万9,250円（旧校舎解体含む）総工事費11億7,423万 6 千円（旧校舎・体育館解体工事含む）総額12億2,451万5,250円（国庫支出金 4 億5,002万 5 千円（36.8%）、県支出金8,409万 3 千円（6.8%）、町債 4 億8,700万円（39.8%）、一般財源 2 億339万7,250円（16.6%）をもって建設している。建設に当たっては、平成21年度に新校舎建設設計委託、平成23年度工事着工、平成24年度工事竣工、平成25年 4 月 1 日から新校舎で授業を開始している。

校舎は鉄筋コンクリート造りで、校舎の 1 階にはプール、2 階には体育館が整備されているのが大きな特徴であった。加えて廊下は広く校舎内は木材を活用した温かみのある構造であり、県内有数の教育環境に優れた校舎であるといえる。一方、屋上は津波時の際、住民の避難場所としての機能を有しており、設計に至るまで徹底的に議論を行うプロセスに感銘を受けた。

本町では平成26年 4 月 1 日から、小学校を再編成統合し、1 校となり「おおとよ小学校」が開校される。将来新校舎建設の構想があって、公共施設の円滑な整備を図るため、大豊町公共施設整備基金を設置し、財源の確保を図っているが、今後、計画が具体化すれば、配置や構造など徹底した議論をし、教育環境に優れた新校舎建設を望む。

